

## 医療における社会・行動科学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	2	区分・時間数	講義 12時間
期 間	前期		
単 位 数	1単位		

### ・学習方針（講義概要等）

現代における重大な健康問題である慢性疾患の発生メカニズムは、特定の細菌や化学物質など単一のものでは説明がつけにくい。慢性疾患が「生活習慣病」や「環境病」といわれるように、その発生メカニズムには、健康にとって問題となる望ましくない生活や労働の諸条件、習慣、行動、さらには環境などが直接的あるいは媒介的に関わっている。人間の行動が疾患を作り出すのならば、人間が健康のために良い行動（保健行動）を選択して実行するために必要な要因を探り、人間の行動を予測・制御する方法を科学する必要がある。行動科学はそれを行う。

本講義では、人間が健康の保持・増進・回復を目的として行う保健行動に関わる社会的要因、文化的要因、心理的要因について概説する。また、現在、医療の現場で用いられている「人間が自らの意思で行動変容できるように支援する」行動科学の理論とモデルを紹介する。医学的な知識に加えて行動科学の基礎理論を学び、人間の行動を科学的に捉える基礎知識を会得することは、医療現場において患者の課題についてロジックを立てて理解し、効果的にサポートすることに役立つ。また、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカルが共通の行動科学理論を理解することは、チーム医療を効果的に実施する上で極めて重要である。

行動科学モデルを種々の場面で応用するための基礎を修得することを期待する。

### ・教育成果（アウトカム）

人の行動や意思決定に関わる社会的要因、文化要因、心理的要因、およびそれら要因間の相互作用に関する知識を会得し、行動科学理論の医療への応用方法を理解することにより、医療人として患者と対応する際に、患者の課題を理解し、効果的に関わる方法を選択できるようにする。

（ディプロマ・ポリシー：1,3,4,5）

### ・到達目標（SBO）

1. 社会、文化、心理的要因により健康観が異なることを理解できる。（34, 36, 487）
2. 健康と環境の関連について説明できる。（491, 496）
3. 個人が保健行動を実行するための一般的条件を列挙できる。（68）
4. 主要な保健行動に関する行動科学モデルを説明できる。（☆）
5. 行動科学モデルを、個人、集団、医療など、種々の場面に適用できることを理解できる。（☆, 50, 51）

・ 講義日程

(矢) 西 106 1-F 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/11	月	4	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>行動科学とは</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動科学の学問的背景について説明できる。</li> <li>2. 医療における行動科学の役割を説明できる。</li> </ol> <p>健康とは</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな健康観について説明できる。</li> <li>2. 健康を全人的にとらえることができる。</li> </ol> <p>事前学習：教科書の第1章「行動科学と健康」をよく読んでおく。また、自分にとっての健康とはどのような状態であるか、なぜそう考えるかをA4判用紙に300字程度のレポートとしてまとめ、初回講義時に提出する。</p> <p>事後学習：章末の「1回目講義の復習」をもとに復習する。</p>
4/18	月	4	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>行動や生活様式と健康・病気</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アラメータ研究について説明できる。</li> <li>2. 守っている健康習慣と平均余命の関係について説明できる。</li> <li>3. アラメータ7を列挙できる。</li> </ol> <p>ソーシャルサポートと健康教育</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康教育の歴史を概説できる。</li> <li>2. ソーシャルサポート、ソーシャルキャピタルの健康への関わりを説明できる。</li> </ol> <p>【一部グループワーク】</p> <p>事前学習：教科書の第2章「健康と病気に関わる諸要因」をよく読んでおく。</p> <p>事後学習：章末の「2回目講義の復習」をもとに復習する。</p>
4/25	月	4	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>保健行動論(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健行動の種類を説明できる。</li> <li>2. 自己効力感について説明できる。</li> <li>3. 自己効力感に関わる要因を列挙できる。</li> <li>4. ストレスの原因と評価について説明できる。</li> <li>5. コーピングの種類と方法について説明できる。</li> </ol> <p>【一部グループワーク】</p> <p>事前学習：教科書の第3章「保健行動とは」「社会的学習理論」「ストレスとコーピング」をよく読んでおく。</p> <p>事後学習：章末の「3回目講義の復習」をもとに復習する。</p>

5/16	月	4	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>保健行動論(2)</p> <p>1. ヘルス・ビリーフ・モデルについて説明できる。</p> <p>2. ローカス・オブ・コントロールについて説明できる。</p> <p>【一部グループワーク】</p> <p>事前学習：教科書の第4章「ヘルス・ビリーフ・モデル」「ローカス・オブ・コントロール」をよく読んでおく。</p> <p>事後学習：章末の「4回目講義の復習」をもとに復習する。</p>
5/23	月	4	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>保健行動論(3)</p> <p>1. 計画的行動理論について説明できる。</p> <p>2. トランス・セオレティカル・モデルについて説明できる。</p> <p>【一部グループワーク】</p> <p>事前学習：教科書の第4章「感情状態と意思決定」「習慣化された行動」「計画的行動理論」「トランス・セオレティカル・モデル」をよく読んでおく。</p> <p>事後学習：章末の「5回目講義の復習」をもとに復習する。</p>
5/30	月	4	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>総合的協働型健康づくり</p> <p>1. 健康教育と環境のかかわりを説明できる。</p> <p>2. プリシード・フレームワークについて説明できる。</p> <p>3. プリシード・プロシード・モデルについて説明できる。</p> <p>事前学習：教科書の第6章「総合的協働型健康づくり」をよく読んでおく。</p> <p>事後学習：章末の「6回目講義の復習」をもとに復習する。</p>
6/6	月	4	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>エンパワーメント教育</p> <p>1. 公衆衛生領域におけるエンパワーメント教育の応用について説明できる。</p> <p>ライフスキル教育</p> <p>1. WHOの定義するライフスキルを列挙できる。</p> <p>2. 代表的なライフスキル教育について説明できる。</p> <p>事前学習：教科書の第7章「エンパワーメント教育、ライフスキル教育」をよく読んでおく。</p> <p>事後学習：章末の「7回目講義の復習」をもとに復習する。</p>

6/13	月	4	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスリテラシーの定義について説明できる。</li> <li>ヘルスリテラシーの種類を列挙できる。</li> <li>ヘルスリテラシーの健康への影響について説明できる。</li> <li>ヘルスコミュニケーションについて説明できる。</li> </ol> <p>まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講義で学んだ理論を学生生活に応用する方法について説明できる。</li> </ol> <p>事前学習：教科書の第8章「ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーション」をよく読んでおく。教科書、配布資料から最終回でのまとめができるように復習する。</p> <p>事後学習：章末の「8回目講義の復習」をもとに復習する。行動科学理論を学生生活に応用する方法について確認する。</p>
------	---	---	------------	----------	---

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	医療における行動科学	相澤 文恵	永代印刷	2022
参	行動科学－健康づくりのための理論と応用 改訂第2版	畑 栄一、土井 由利子 編集	南江堂	2009
参	健康行動と健康教育 理論, 研究, 実践	Karen Glanz, 他 編集	医学書院	2006

・成績評価方法

定期試験（70%）と提出物（30%）で評価する。

・特記事項・その他

本科目では、一般的な講義に加えて双方向授業を適宜取り入れて課題に取り組む。グループワークは感染予防対策を徹底して実施し、状況に応じて方法を適宜変更する。講義で取り上げた課題については、講義内で解説する。事後学習として、各回講義の学習内容を教科書章末の問題で確認し、その結果をWebClassに提出する。各問題の正答とポイントはWebClassにてフィードバックする。

シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、教科書を用いて事前学習を行うこと。各講義に対する事前学習および事後学習の時間はそれぞれ最低30分とする。

定期試験後にフィードバックとして補講等を実施する。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC(Microsoft Surface Pro)	1	講義資料の提示
講義	書面カメラ・DVD プレーヤセット	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ型 PC (EPSON MR4800E)	1	講義資料の作成